

防災・水防の合同会議を開催

5月29日、市や関係機関など15団体の代表者が出席して、防災会議・水防協議会合同会議が市役所で開かれました。

今年度新たに取り組むのは、防災対策行動計画の策定と、安心・安全マップづくりです。

行動計画は、災害時の初動体制や情報収集伝達体制の強化をはじめ、被災者や災害時の要援護者の支援対策、ボランティア支援体制の確立など、具体的な項目を盛り込みます。安心・安全マップづくりは、学校区ごとに危険箇所や避難箇所を把握し、地域ぐるみで防災・防犯対策に取り組む環境づくりをめざします。

また自主防災組織率の向上の取り組みや、自主防災組織や防災ボランティアを対象に、防災訓練・防災講演会などを開催し、防災意識の啓発を図ります。

6月18日には、防災ステーションで、土のうづくり、消火訓練、救急法の講習が行われました。

「防災関連計画の実効性をあげ、市民の生命を守る体制づくりを進めます」とあいさつする五藤市長



「落ち着いてレバーを操作し、見事消火！」防災講座での訓練のようす



男女共同参画社会の実現に向けて

6月17日、市内外から、子育て支援団体や女性団体など、約100人が参加して、みはらウィメンズネットワークの総会を、市民福祉会館で開きました。

総会では、昨年度の活動報告や、今年度の予定などが話し合われました。

講演会では、県男女共同参画審議会委員の天部テルミさんが、「道遠し、男女共同参画」と題して、家庭や職場、地域の現状などを例に出しながら、「個性を活かしたネットワークを作り、お互いが相手の成長を支援する、何事にも挑戦する気持ちを持つことが大切です」と、これからの男女共同参画の推進につながる助言を受けました。



「しり込みせず何事もやってみる女性の心意気が男女共同参画社会への第一歩

ようこそ三原市へ 何事も初体験！しっかり国際交流できたかな

6月1日から4日まで、シンガポールのバレスティアヒル中学校の生徒12人が三原市を訪れました。この交流事業は、平成8年から始まり、今回で11回目になり、シンガポールからの来日は、5回目となります。

生徒たちは、学校訪問や工場見学、ホームステイなどを通して交流しました。

初日の第一中学校での歓迎会では、互いに自己紹介したり、歌や演劇を披露したりした後、グラウンドに移動して、ペタンクを一緒に楽しみました。

2日目には、本郷中学校での授業参加と給食交流の後、しいたけとそら豆の収穫を体験しました。

生徒たちは、初めての経験に、戸惑いをみせながらも、うれしそうに作業を行っていました。

今後は、8月3日から8日まで、市内の中学2年生14人がシンガポールを訪れて、さらに交流を深めます。



「とりたてのしいたけを、ペキュールで食べました」

「大きなそら豆に、びっくりしながらも、楽しく収穫できました」

